16年度県政説明会

予算概要や施策示す

16年度県政説明会は16日、鹿児島市の県庁講堂で開かれ、県内各市町村や市町村関係者ら約250人が出席、市町村関係者らに対し本庁各部長らが今年度当初予算の概要や、所管行政施策の基本的な方針などを述べた。

説明会では、初めに須賀龍郎県知事が挨拶、市町村に県政への理解と協力を求めた。このあと、各所管事項の説明に入り、岡積常治企画部長や加藤憲一土木部長らが予算内容や重点項目などについて述べた。

この中で、離島振興事業の推進で主要地方道西之表南種子線、県道手打薗牟田港線、西之表港、宮之浦港、長浜港、硫黄島港、幣串漁港、口永良部漁港、新種子島空港、獅子島県営中山間総合整備、屋久島ごみ処理施設などの整備を推進。奄美群島振興開発事業の推進で国道58号の和光バイパス、おがみ山バイパス、網野子工区、名瀬瀬戸内線、伊仙天城線、湯湾新村線整備、名瀬港、奄美空港、沖永良部空港などの整備を進め、奄美群島の自立的発展を図るとした。

予算や重点項目の内容が示された説明会
＝鹿児島市の県庁講堂で

加藤土木部長は、広域的な国内交流ネットワークの形成、災害に強い安全な国土の形成、安全で快適な社会の実現の三つの柱を基本に事業展開する方針のもと、主要施策を進めていくと説明した。

かお…人

鹿児島港湾・空港整備事務所長　関　憲一　さん

災害に強いみなとづくりを

鹿児島には、昭和51年以来となる2度目の赴任。当時は鹿児島弁は分からず、溝辺空港整備は初の陸工事で大変だったとか。久しぶりの鹿児島の印象を「本港区はものすごくきれいになりましたね。路面電車など見るとなつかしくて心が和みます」と笑顔で語る。

主に港湾工事を専門に手掛けてきた中で、神戸港の震災復旧にも取り組んだ。液状化現象が発生し「現場での状況が分からず手探りでの作業で、港を使用しながら復旧も行うなど工程の調整が難しかった」。このときの経験から、地震などの災害に対して強い〝耐震パトス〟に対する認識を改めて実感。鹿児島港の整備について「南九州の拠点港として、災害に強いみなとづくりを促進していきたい」と意気込みを述べる。

公共事業は、選別化、集中化が進む状況を踏まえ、コスト縮減と品質確保の両立が課題。施工業者へは「適正な価格で施工する体制確立を」とメッセージ。

熊本県立玉名工業高等学校卒業後、昭和43年に運輸省入省。同省第三港湾建設局、国土交通省九州地方整備局港湾空港部港湾事業課長など経て現在に至る。

福岡県宗像市に夫人と子ども1人を残して単身赴任。また、目に入れても痛くないお孫さんも2人いるとか。休みの日には「市内の温泉めぐりをして全部の温泉を制覇したいですね」と話す。福岡県生まれの54歳。

（水迫伸哉・報道部副部長）

鹿児島市管工事協組集団献血

血液不足解消に一役

献血に協力する参加者
＝鹿児島市の県赤十字血液センターで

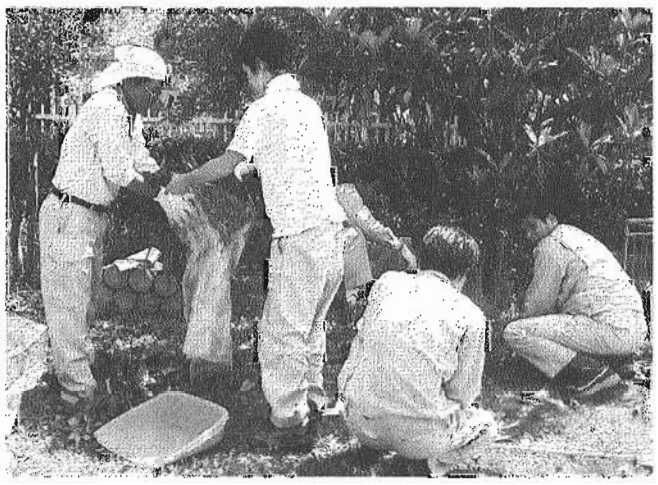
鹿児島市管工事協同組合（肥後勝司理事長）は16日、鹿児島市の県赤十字血液センターで社会奉仕活動の一環として集団献血活動と健康診断を実施、早朝から会員ら約300人が駆け付け、血液不足の時期に善意の献血に協力した。

この献血も、毎年恒例となり今回で14回目、すっかり社会奉仕活動として定着した。昨年からは各自の健康状態を知る上でも健康診断と併せて実施している。当日は朝早くから会員や従業員ら多数が、忙しい仕事の合間をみて同センターを訪れ、血液検査や血圧測定などを行った後、次々と献血車に乗り込んで、血液不足の解消へと採血を行った。

同センターの担当者は「夏場にかけて、血液不足となるこの時期の団体献血は本当にありがたい」と感謝していた。

鹿大附属養護校で奉仕作業

除草や屋根清掃など



除草等の清掃に励む参加者＝鹿児島市の鹿児島大学教育学部附属養護学校で

津曲工業㈱（津曲善三社長）は16日、鹿児島市の鹿児島大学教育学部附属養護学校で恒例の奉仕活動を実施、敷地内の樹木伐採や除草、建物の屋根清掃などを行った。

好天の中、作業には社員や協力会社従業員ら約90人が参加。はじめに津曲社長が「毎年、多くの皆さまに参加いただき非常に感謝しています。作業中は、生徒の方々にも細心の注意を払って、けがのないようにお願いします」と挨拶した。

作業は、四つの班に分かれて実施。参加者らは、グラウンドや花壇の除草、樹木伐採、校舎・体育館の屋根清掃などを中心に約3時間の作業に取り組んだ。

活動に対して、同校の福重隆義事務係長は「4月からの国立大学法人化に伴い、本校でも環境面に対する投資など今後、厳しい状況が予測されます。より良い学校環境づくりを目指していく中で、これだけ多くの皆さまに協力していただけることは本当にありがたいです」と感謝の意を語った。

指宿リサイクルセンター完成

1日当たり約1.5トンの処理能力

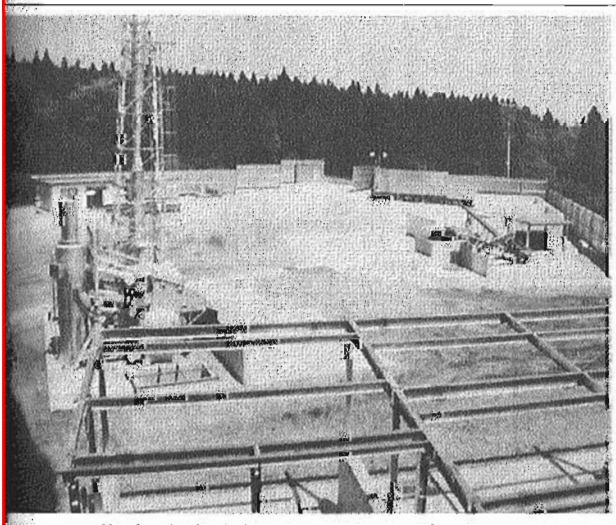
きょうオープン

岩野　仁志社長

㈱指宿リサイクルセンター（岩野仁志社長）が、指宿市内に建設を進めてきた中間処理施設がこのほど完成。きょう17日のオープンに先立ち16日に行われた見学会には、関係省庁をはじめ管内の建設関係業者らが多数参加した。

同施設は、指宿市内のごみ処理が適正になされていない現状に疑問を感じた岩野社長が、処理フローを構築することで、同市内のごみの減量化に貢献しようと約2年前に考案。その後、思考錯誤を重ねた末に、2月には指宿市より一般廃棄物処理業許可を取得。続いて、4月12日には産業廃棄物処分業の許可を取得し、今回の開所に至った。

市道丈六成川線沿いの指宿市焼却場隣接地に建設された同施設は、約5700平方㍍（申請面積）は1日当たり1496㌔㌘の処理能力を持つ焼却炉（中島鐵工所製・NS－501型）をはじめ、がれき類のストックヤード（1000㎡）、一般・産業廃棄物用受入設備（各400㎡）、木材チップ置場（270㎡）、焼却用廃棄物置場（38㎡）などを設置。また、管理棟（29・14㎡）の隣には、地下から採掘した天然温泉風呂が完備されているほか、先祖供養の仏像やミニ庭園、野鳥の水飲み場と言った「癒やしの空間」も演出されるなど、従来の処理施設には見られないさまざまな思考がこらされている。



指宿リサイクルセンターの全景

当日は、早朝から指宿市役所、鹿児島国道工事事務所指宿維持管理出張所など管内発注官庁をはじめ、建設関連業者らが大勢見学に訪れ、真新しい施設内を興味深く見入っていた。

岩野社長は「地域全体の実情を考えると、どうしても一般と産業廃棄物処理業許可を取得することが必要だった。これからは、関係官庁をはじめ地域住民の協力もいただきながら、より適正な処理・リサイクルを進めて

お手軽で便利な
購読料のお支払いは
自動振替で
鹿児島建設新聞
099-227-5100へ